

第 57 回 簿 記 検 定 試 験
1 級 (原価計算) 問題用紙

(平成25年12月 8 日施行)

(制限時間 1 時間30分)

1

次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 工程別総合原価計算を採用している唐津製作所では、賃金を第1工程で ¥455,000 第2工程で ¥425,000 消費した。
- (2) 個別原価計算を採用している伊万里製作所の3月中の売上高(掛け)は、¥3,145,000であり、同月の売上製品原価月報の合計額は¥2,285,000であった。よって、売上高および売上原価を計上した。
- (3) 組別総合原価計算を採用している鳥栖製作所は、組間接費 ¥903,000 を次の直接材料費を基準にして、A組とB組に配賦した。
直接材料費 A組 ¥1,806,000 B組 ¥774,000
- (4) 製造指図書#3の製品が製造の途中で機械の故障のために、全部が仕損じとなり、新たに製造指図書を発行して、代品を製造することになった。これまでの製造原価は ¥240,000 であり、仕損品の見積売却価額を ¥100,000 と評価し、残額は仕損費とした。
- (5) 会計期末にあたり、製造間接費配賦差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、当月の製造間接費の予定配賦額は ¥2,520,000 実際発生額は ¥2,584,000 であり、製造間接費配賦差異勘定の前月繰越高は ¥144,000 (貸方)であった。
- (6) 等級別総合原価計算を採用している多久工業株式会社において、1級製品と2級製品が次のとおり完成した。ただし、完成品の総合原価は ¥1,326,000 であり、等価係数は各製品1個あたりの重量を基準としている。
- | | 重量 | 完成品数量 |
|------|------|--------|
| 1級製品 | 12kg | 3,600個 |
| 2級製品 | 8kg | 4,800個 |
- (7) 工場会計が独立している佐賀工業株式会社の工場は、本月分賃金を ¥1,750,000 と報告し、本社は所得税額 ¥70,000 健康保険料 ¥80,000 を差し引き、現金を工場に送金し、工場はこれを従業員に支払った。(工場の仕訳)

2

杵島製作所は、単純総合原価計算を採用し、A製品を製造している。次の資料によって、

- (1)製造勘定を完成しなさい。
(2)単純総合原価計算表を完成させなさい。
ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
ii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

資 料

- a. 生産数量
月初仕掛品 500個 (仕上がり程度50%)
完成品 2,000個
月末仕掛品 600個 (仕上がり程度45%)
b. 賃金 当月作業時間 850時間 実際平均賃率 ¥800
c. 減価償却費 年間見積高 ¥900,000

3

次の問いに答えなさい。

- (1) 次の文の□のなかに、下記の語群の中から、もっとも適当ものを選び、その番号を記入しなさい。

製品を製造するためにかかった費用のことを□a□といい、これに販売費と一般管理費を加えたものを総原価という。主な製品の製造過程から必然的に発生する副次的な物品を□b□という。また、製造工程のすべてを終了しない途中の段階で、倉庫に貯蔵したり、外部に販売することでもできる状態になっているものを□c□という。

1. 仕損品 2. 売上原価 3. 半製品 4. 完成品 5. 仕掛品 6. 副産物 7. 製造原価

- (2) 嬉野製作所における下記の資料から、製造原価報告書および損益計算書に記載する次の金額を求めなさい。なお、材料消費価格差異および賃率差異は売上原価に振り替える。

資 料
a. 当期材料費
b. 当期労務費
c. 当期経費
d. 売上原価

① 素材	当期予定消費高	¥1,485,000	当期実際消費高	¥1,565,000	材料消費価格差異	¥□
② 工場消耗品	期首棚卸高	¥31,000	当期仕入高	¥357,000	期末棚卸高	¥42,000
③ 賃金	当期予定消費高	¥□	当期実際消費高	¥3,650,000	賃率差異	¥46,000 (貸方)
④ 給料	当期消費高	¥950,000				
⑤ 外注加工賃	前期前払高	¥32,000	当期支払高	¥271,000	当期未払高	¥28,000
⑥ 電力料	当期支払高	¥178,000	当期測定高	¥182,000		
⑦ 減価償却費	当期消費高	¥360,000				
⑧ 仕掛品	期首棚卸高	¥620,000	期末棚卸高	¥410,000		
⑨ 製品	期首棚卸高	¥710,000	期末棚卸高	¥680,000		

鹿島製作所は、個別原価計算を採用し、A製品（製造指図書＃／）とB製品（製造指図書＃2）を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 4月中の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (3) A製品（製造指図書＃／）の原価計算表を完成しなさい。
- ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。
- | | | | |
|-----------------|------|-----------|--------------------------|
| 素 材 | 200個 | @ ¥ 3,200 | ¥ 640,000 |
| 工場消耗品 | 140個 | 〃 〃 500 | ¥ 70,000 |
| 賃 金 (未払高) | | | ¥ 195,000 |
| 仕 掛 品 (製造指図書＃1) | | | ¥ 2,368,000 (原価計算表に記入済み) |
- ii 素材の消費高の計算は先入先出法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算には、作業時間1時間につき¥820の予定賃率を用いている。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこなない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額	¥ 9,200,000	¥ 5,200,000
年間予定直接作業時間	9,200時間	6,500時間

v 製造間接費勘定を設けている。

取 引
4月 5日

素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	480個	@ ¥ 3,400	¥ 1,632,000
工場消耗品	500個	〃 〃 500	¥ 250,000

素材440個をB製品（製造指図書＃2）用に消費した。

次の製造経費を小切手を振り出して支払った。

電 力 料	¥ 146,000	保 険 料	¥ 165,000
雑 費	¥ 50,000		

賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額 ¥ 1,594,000

うち、控除額 所得税額 ¥ 152,000 健康保険料 ¥ 172,000

- ① 工場消耗品の月末棚卸高は240個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）
- ② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。（消費賃金勘定を設けている。）
- 製造指図書＃1 700時間 製造指図書＃2 600時間 間接作業 500時間
- ③ 健康保険料の事業主負担額 ¥ 172,000 を計上した。
- ④ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料	¥ 190,000	保 険 料	¥ 55,000
減価償却費	¥ 85,000	雑 費	¥ 40,000

⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

	第1製造部門	第2製造部門
製造指図書＃1	400時間	300時間
製造指図書＃2	350時間	250時間

⑥ 製造間接費を次の部門費配分表（製造間接費部門別配賦表）によって、各部門に配分した。

部 門 費 配 分 表

平成〇年4月分

費 目	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~
部門費合計		1,152,000	616,000	296,000	144,000	96,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって、各製造部門に配賦した。

配 賦 基 準		第1製造部門	第2製造部門	動力部門	工場事務部門
動力 部 門 費	kW数×運転時間数	20kW数×100時間	4kW数×250時間	—	5kW数×200時間
工場事務部門費	従業員数	20人	16人	4人	—

⑧ A製品（製造指図書＃1）360個が完成した。

⑨ 当月の賃金実際消費高を計上した。ただし、当月の賃金未払高は¥144,000である。

⑩ 賃金の予定賃率による消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。



4

(1)

	借	方	貸	方
4月5日				
10日				
18日				
25日				
①				
②				
③				
④				
⑤				
30日				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				
⑪				

(2)

部門費振替表

相互配賦法

平成〇年々月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	部門
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
部門費合計		1,152,000	616,000	296,000	144,000	96,000
動力部門費	kw数×運転時間数				—	—
工場事務部門費	従業員数					—
第1次配賦額						
動力部門費	kw数×運転時間数					
工場事務部門費	従業員数					
第2次配賦額						
製造部門費合計						

(3)

製造指図書# /

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費		集計	
		部門	時間配賦率	摘要	金額
2,004,000	164,000	(省略)		直接材料費	
				直接労務費	
				製造間接費	
				製造原価	
				完成品数量	360個
				製品単価	¥

試験場校名

受験番号

2

総得点

第57回簿記検定試験

(平成25年12月8日施行)

# 1級(原価計算)答案用紙

	借	方	貸	方
(1)	第1工程製造 第2工程製造	455,000 425,000	賃金	880,000
(2)	売上掛金 売上原価	3,145,000 2,285,000	売上 製品	3,145,000 2,285,000
(3)	A組製造 B組製造	632,100 270,900	組間接費	903,000
(4)	仁損品 仁損費	100,000 140,000	製造	240,000
(5)	製造間接費配賦差異	80,000	売上原価	80,000
(6)	1級製品 2級製品	702,000 624,000	製造	1,326,000
(7)	賃金	1,750,000	本社	1,750,000

製 造		製 次	品 越
前素工賃給健減電雜	前月綠耗場消場保險償力	710,000 1,890,000 396,000 680,000 260,000 50,000 75,000 135,000 20,000	( 3,460,000 ) ( 756,000 )
			( 4216,000 )

單純總合原価計算表				
平成〇年6月分				
摘要	素材	加工費	工賃	合計
材料費	1,890,000		396,000	2,286,000
労務費	—		990,000	990,000
経費	—		230,000	230,000
計	1,890,000		1,616,000	3,506,000
月初仕掛品原価	550,000		160,000	710,000
計	2,440,000		1,776,000	4,216,000
月末仕掛品原価	540,000		216,000	756,000
完成品原価	1,900,000		1,560,000	3,460,000
完成品数量	2,000個		2,000個	2,000個
製品単価	950		780	1,730

<b>3</b>	(1)	a	7	b	6	c	3
----------	-----	---	---	---	---	---	---

(2)	a	当期材料費	¥ 1,881,000	b	当期勞務費	¥ 4646,000
	c	当期經費	¥ 873,000	d	売上原価	¥ 7624,000

試験場校名	受験番号	1

(1)		借方		貸方	
4月5日	素材	1,632,000	買掛金	1,882,000	
10日	工場消耗品	250,000			
	製造	1,456,000	素材	1,456,000	
18日	電力料	146,000	当座預金	361,000	
	保険料	165,000			
	雑費	50,000			
25日	賃金	1,594,000	所得税預金	152,000	
			健康保険料預金	172,000	
			当座預金	1,270,000	
①	製造間接費	200,000	工場消耗品	200,000	
②	製造製造間接費	1,066,000	消費賃金	1,476,000	
③	製造製造間接費	410,000			
④	製造製造間接費	172,000	健康保険料	172,000	
⑤	製造製造間接費	370,000	電力料	190,000	
			保険料	55,000	
			雑費	85,000	
			第1製造部門費	40,000	
30日	製造	1,190,000	第2製造部門費	750,000	
⑥	第1製造部門費	616,000	製造間接費	440,000	
	第2製造部門費	296,000		1,152,000	
	動力事務部門費	147,000			
	工場事務部門費	96,000			
⑦	第1製造部門費	146,400	動力部門費	144,000	
	第2製造部門費	93,600	工場事務部門費	96,000	
⑧	製品	3,582,000	製造	3,582,000	
⑨	消費賃金	1,543,000	賃金	1,543,000	
⑩	償還率差異	67,000	消費賃金	67,000	
⑪	製造部門費配賦差異	12,400	第1製造部門費	12,400	
	第2製造部門費	50,400	製造部門費配賦差異	50,400	

(2) 部門費振替表  
相互配賦法  
平成〇年4月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	部門
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
部門費合計		1,152,000	616,000	296,000	144,000	96,000
動力部門費	kW数×運転時間数	144,000	72,000	36,000	—	36,000
工場事務部門費	従業員数	96,000	48,000	38,400	9,600	—
第1次配賦額		240,000	120,000	74,400	9,600	36,000
動力部門費	kW数×運転時間数	9,600	6,400	3,200		
工場事務部門費	従業員数	36,000	20,000	16,000		
第2次配賦額		45,600	26,400	19,200		
製造部門費合計		1,152,000	762,400	389,600		

(3) 製造指図書# /  
原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費			集計	
		部門	時間	配賦率	摘要	金額
2,004,000	164,000	(省略)			直接材料費	2,004,000
	574,000	第1	400	1,000	直接労務費	738,000
	738,000	第2	300	800	製造間接費	840,000
					製造原価	3,582,000
					完成品数量	360個
					製品単価	9,950

試験場校名	受験番号	2	総得点